

乳腺超音波検査



臨床検査部
黒瀬 実香

超音波検査室では様々な部位の検査を行っていますが、その中の乳腺超音波検査についてご紹介します。

まず当院での乳腺超音波検査をお受け頂く検査の流れをご説明します。

- ① 医師が電子カルテで検査を依頼すると、超音波検査室に患者様の情報が届きます。
- ② 患者様には受付時に発行される受付票を持って、2階の超音波検査室にお越し頂きます。ここでお名前を確認して受付をして頂きます。
検査室は4部屋ありますので、お名前をお呼びした部屋で検査いたします。
- ③ 検査は、上半身の服を脱いでベッドの上に仰向けになって頂きます。
超音波が良く伝わるようにするために乳房にゼリーを塗って、超音波の発信機能と受信機能をもつ探触子を直接当てます。探触子を左右、上下に移動させて、反射してくる波の断面をモニターに写し出し、乳房の内部を観察します。検査中の痛みはなく、体への負担もほとんどありません。検査中は画面を見やすくするために検査室内を暗くする必要があります。検査の所要時間は5～20分程度です。
- ④ 超音波検査の画像診断は乳腺専門の医師が行い、検査結果については受診科において担当の医師がご説明いたします。

乳腺超音波検査 受診の流れ

①検査の指示



②超音波検査受付



③検査実施



④検査結果説明

乳腺超音波検査は乳房内の「しこり(腫瘍)」を発見するのに有効な検査といわれていますが、モニターに写された画像からそのしこりが良性のものか悪性のものかを判断していきます。乳がんの場合はしこりの輪郭が凹凸で、しこりの内部に不均一な濃淡が確認できるなどの形の変化として現れます。超音波検査の原理は乳腺のほか腹部や甲状腺、心臓などすべて同じです。ヒトの耳には聞こえない音(超音波)を探触子から発し、臓器に超音波を当てて臓器からはね返ってくる音波の様子を画像にしているものです。乳腺は体表の浅い場所にあるため、解像度の高い周波数を発する探触子を用いて検査をしています。最近では良性か悪性かの判断に有用な、しこり内部の血流の有無や、しこり自体の硬さを測定する機能が付いている装置もあります。

乳がん検診には超音波検査の他に、放射線科で行なうマンモグラフィー検査があります。

検査を受けられた患者様からどの検査をしたら良いのか、というご質問を受ける場合がよくあります。マンモグラフィー検査は乳がんの可能性があるとされる「微細石灰化」の発見に有効な検査で、超音波検査は乳がんの可能性があるとされる「しこり」の発見に有効な検査といわれています。どちらの検査にも長所と短所がありますので、お悩みの方でしたら専門の医師にご相談ください。

当院の超音波検査室では、心臓超音波検査以外の検査を担当しています(心臓超音波検査は生理検査室で行なっています)。検査は、超音波専門医師1名、超音波検査士(臨床検査技師)3名(女性も含む)、その他、各専門分野の医師(曜日により検査内容が異なります)が検査を担当しております。また、受付や介助等を担当する女性職員2名もおりますので、分からないことがありましたらお気軽にお声をお掛け下さい。笑顔で対応しています！